

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第8号を發表します。

本年は、麦類の出穂が早くなり、それに伴って防除適期が早まると予想されることから、特に現地での防除指導にご配慮願います。

令和元年度 病害虫発生予察防除情報 第8号

麦類 赤かび病の防除対策について

- 1 対象作物 麦類 (コムギ、オオムギ(裸麦を含む))
- 2 病害虫名 赤かび病
- 3 発生地域 県下全地域

4 麦類生育状況、気象予報について

- (1) 麦類気象感応調査(加西市、11月8日播種)によると、3月4日調査では「シロガネコムギ」の主稈葉数は8.9で、平年値(同時期6.9)を大きく上回っており、出穂期が平年より8日早くなった前年値(同時期7.2)も上回って、生育ステージが平年より大きく進んでいる。
- (2) 麦類気象感応調査ほの「イチバンボシ」「シロガネコムギ」では、3月9日現在の幼穂長はそれぞれ、2.3cm、1.9cmとなっており、前者は3月12日には、後者は3月17日~19日にはそれぞれ出穂が始まると予想される。
- (3) これらのことから、出穂期は大幅に早まり、それに伴い開花期も早まると予想される(出穂期は全茎(穂)数の40~50%が出穂した日)。
- (4) 大阪管区气象台(3月5日付)発表の近畿地方の1か月予報によると、天候は数日の周期で変わり、ある程度の降雨が見込まれる。気温については、平年並または高い確率ともに40%、3~4週目は、高い確率60%と予想されている。



写真 コムギ赤かび病. 左:乳熟期, 右:糊熟期

5 発生生態・予想について

本病は、開花7~10日後頃から発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる。発生がひどくなると被害種子は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下し、かび毒による汚染を起こす恐れがある。

本病の発生(一次感染)は、開花始期から10日間の降雨日数が多いと発病穂率が高くなり、また

この期間の日最低気温が高いと発病度が高くなると確認されている。本病が、最も感染しやすい時期は、開花期（約50%が開花）から開花盛期（約80%が開花）である（農研機構「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」より）。

6 防除対策について

- (1) 薬剤による防除適期は、開花始め～開花盛期である。4月初めまで気温の高い傾向が続くことが予想されており、開花始めが3月5半旬頃となる可能性がある。品種や播種時期ごとに出穂及び開花状況をほ場で把握し、遅れないように薬剤散布を行う。
- (2) 薬剤の治療効果はほとんど見込めないので発病前の予防散布が必要である。また、薬剤の残効期間もそれほど長くはないため、開花期に曇雨天が続く年には複数回の薬剤散布が必要である。
- (3) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。
兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222